

アイヌ政策推進交付金事業計画

1 事業名	室蘭市アイヌ施策推進事業
2 事業の種類	(文化振興事業) (地域・産業振興事業) (コミュニティ活動支援事業)
3 事業の目的	アイヌ文化等の次世代への継承を確実なものとするともに、地域に存するアイヌ文化等を発信し、内外におけるアイヌ関連の交流活動を活発化させ、魅力ある地域社会の形成を目的とする。
4 事業の概要	<p>(1)文化振興事業</p> <p>①アイヌ文化の体験交流事業 ○事業の実施主体:室蘭市 ○事業の実施場所:室蘭市生涯学習センター、室蘭市イタンキ生活館 ○事業の実施期間:令和6年4月～令和7年3月 ○事業の内容と考え方 アイヌ文化についての一般市民の理解や関心を高めるため、講演会、体験学習会を開催する。</p> <p>②絵鞆岬慰霊碑等整備事業 ○事業の実施主体:室蘭市 ○事業の実施場所:絵鞆岬展望台周辺 ○事業の実施期間:令和6年4月～令和7年3月 ○事業の内容と考え方 絵鞆岬展望台にある先住民慰霊碑は、設置から約60年が経過し老朽化が著しい。慰霊碑に訪れる方へ倒壊による危険が及ぶことのないよう、慰霊碑の改修及び周辺の整備を行い、アイヌ文化の振興及び伝統の継承につなげる。 令和6年度は、老朽化している慰霊碑の改修と高齢のアイヌの方を含む多世代の方が慰霊碑を訪問できるよう、バリアフリー化等の周辺の環境を整備する。</p>
5 アイヌ施策推進地域計画における記載	<p>4 アイヌ施策の推進に必要な事業に関する事項</p> <p>4-2 アイヌの伝統等に関する理解の促進に資する事業</p> <p>■ アイヌ文化の体験交流事業・・・アイヌ文化に係る一般市民向け講演会や展示会、体験学習事業等を開催し、アイヌ文化の理解を促進する。</p> <p>■ 絵鞆岬慰霊碑等整備事業・・・絵鞆岬展望台にある先住民慰霊碑の改修や周辺環境の整備を行い、後世に地域のアイヌ文化の伝統の継承の拠点とし、地域住民や観光客などへのアイヌ文化の理解を促進する。</p>
6 事業の成果目標等	
(1)成果目標の達成に向けた工程	<p>(1)文化振興事業</p> <p>・アイヌ文化に係る一般市民向け講演会や体験学習事業を開催し、アイヌ文化の普及啓発を図る。</p> <p>・絵鞆岬アイヌ慰霊碑等を改修し、後世に地域のアイヌ文化の伝統の継承の拠点とし、地域住民や観光客などへのアイヌ文化の理解を促進する。</p>
(2)成果目標、(中間)目標年度(成果目標に対する現状値、及び成果目標の達成見込みについて記載すること)	<p>(1)文化振興事業</p> <p>■室蘭市民俗資料館の利用者数 (現状値)平成30年度 3,085人/年間 (中間目標)令和4年度 3,500人/年間 (最終目標)令和6年度 3,500人/年間 成果目標について、令和6年度に達成見込み。</p> <p>■絵鞆岬展望台入込数</p>

	<p>(現状値)令和2年度 6,410人/年間 (中間目標)令和4年度 6,500人/年間 (最終目標)令和6年度 10,000人/年間 成果目標について、令和6年度に達成見込み。</p>
(3) 成果目標の確認方法	<p>各事業に設定しているKPIについては実績値を公表し、毎年度、目標の達成状況の検証、報告を行い、室蘭アイヌ協会等からの意見に基づき計画期間内の事業実施等に反映させる。</p>
7 地域の概要	
(1) 地域におけるアイヌ文化等の現状及び課題	<p>(1) 地域におけるアイヌ文化等の現状及び課題</p> <p>室蘭市域では、天然の良港を背景に、アイヌの人々の古くからの暮らしが遺跡や地名として確認される。特にアイヌ語の地名は、市域全体で100を超える地名が記録されており、全道的に見ても多いと言える。</p> <p>室蘭は、アイヌ文化に係る研究の蓄積も豊富で、アイヌ語学者として名高い金田一京助氏が、ユカラ(叙事詩)をはじめとするアイヌ語や口承文芸の研究に初めて取り組んだ地として知られており、また、アイヌ民族出身のアイヌ語学者である知里真志保氏、アイヌ語地名研究の第一人者として知られる山田秀三氏が、豊富なアイヌ語地名を元に共同で地名研究を行ったのも室蘭である。</p> <p>知里真志保氏・山田秀三氏著「室蘭市のアイヌ語地名」には、アイヌは土地に対する捉え方を、そのまま地名として名付けている旨が書かれているが、室蘭市の絵鞆(えとも)半島外海岸(太平洋側海岸)では、ハルカラモイ(ハルカルモイ:食料とる入江)、増一浜(マスイチセ:海猫の家)、地球岬(ポロチケウエ:大きい断崖)、トゥカリシヨ浜(トゥカリシヨ:アザラシ岩)など、地名としてアイヌ語で名付けられた当時の自然や景観が、現在もそのままに残されている。このため、平成24年1月に国(文化庁)から「名勝ピリカノカ(美しい形)絵鞆半島外海岸」の指定を受けており、アイヌの人々の精神性や自然観・暮らしを現地で体感できる景勝地「生きた地名の地」と言われている。</p> <p>室蘭市には昭和51年3月に社団法人北海道ウタリ協会室蘭支部が設立された。その後、平成26年4月に室蘭アイヌ協会へ組織を改め、これまでアイヌ文化の復興や伝承を図るとともに、絵鞆臨海公園内の先住民慰霊碑や室蘭市イタンキ生活館を活動の拠点としてアイヌの伝統的儀礼を開催するなど、アイヌ文化等の発信を行ってきた。</p> <p>また、室蘭市教育委員会では、アイヌ文化への理解を深めるために、室蘭市民俗資料館におけるアイヌ民具をはじめとする関連資料の保存・展示のほか、アイヌ文化の解説を実施し、市内ではアイヌの歴史や文化を学ぶ機会の充実が図られており、市民の関心が高まりつつある。</p> <p>このように、市内にはアイヌの歴史や文化を学ぶ機会が、一定程度あり、市民の関心は高まりつつあるものの、貴重なアイヌ関係資料の保存・展示にあたり、中にはそのままの展示に耐えられないものがあることから、資料の複製作成、収蔵機器の更新などが急務となっている。</p> <p>室蘭アイヌ協会の活動拠点となっている室蘭市イタンキ生活館については、老朽化が著しく、室内設備も古く、一部雨漏りや壁の亀裂等も生じており、日常的な利用や非常時の一時避難所としての機能にも支障を来し、改修への要望も多い。また、絵鞆臨海公園内の「エンルム・チャシ」跡地には、室蘭港開港90年、市制施行40年を記念して室蘭市が設置した先住民慰霊碑があり、その前の広場は、「カムイノミ・イチャルパ」の開催場所となっているが、慰霊碑は、老朽化により亀裂や腐食が著しく、改修への要望も多い。</p> <p>室蘭市においては、アイヌ文化に対する理解を促進し、アイヌの人々の民族としての誇りが尊重される共生社会の実現を図るため、アイヌの有形・無形の貴重な文化遺産に親しめる場や、地域住民がアイヌの人々と交流できる場を充実させる必要があると考えている。</p>
(2) 施設等の管	<p>室蘭市民俗資料館は、室蘭市教育委員会教育部生涯学習課が管理して</p>

理運営体制	<p>いる。 絵鞆岬アイヌ慰霊碑は、室蘭市経済部観光課が管理している。</p>
(3)アイヌ関係団体及び地域住民の協力体制	<p>室蘭アイヌ協会と定期的に意見交換を行い、協力体制を維持している。</p>

8 収支予算

(1) 収入の部

(単位:円)

区 分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (本年度予算額)	比較増減	
			増	減
国庫補助金	44,218,000	88,000	44,130,000	0
市町村負担額	11,055,000	22,000	11,033,000	0
計	55,273,000	110,000	55,163,000	0

(2) 支出の部

(単位:円)

経 費 区 分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (本年度予算額)	比較増減	
			増	減
①文化振興事業	110,000	110,000	0	0
需用費	17,000	17,000	0	0
使用料及び賃借料	9,000	9,000	0	0
委託料			0	0
報償費	84,000	84,000	0	0
備品購入費			0	0
②文化振興事業	55,163,000	0	55,163,000	0
工事請負費	55,163,000		55,163,000	0
備品購入費			0	0
役務費			0	0
需用費			0	0
合 計	55,273,000	110,000	55,163,000	0
需用費	17,000	17,000	0	0
役務費	0	0	0	0
使用料及び賃借料	9,000	9,000	0	0
備品購入費	0	0	0	0
工事請負費	55,163,000	0	55,163,000	0
委託料	0	0	0	0
報償費	84,000	84,000	0	0